

小学校学習指導要領と幼稚園教育要領の接続性の実態とその課題

The Actual Condition and Problems which Relate on the Connection of the Government Course Guidelines of Elementary School and Kindergarten

田 中 敏 明

Toshiaki TANAKA

幼児教育講座

永 渕 美香子

Mikako NAGAFUCHI

中村学園大学短期大学部

(平成26年9月30日受理)

小学校学習指導要領1年生の教科のうち、国語、算数、生活および道徳に示されている目標と内容、と学習指導要領には示されていないが小学校での生活や学習に必要なと思われる心情、態度、能力と、幼稚園教育要領に示されている5領域のねらいと内容を対応させ、小学校教育と幼児教育との接続の様子を見た。その結果、全体的には両者がある程度対応しているものの、幼稚園教育要領には、心の強さなどいくつかの項目がかけていること、小学校学習指導要領は能力的な側面を中心に具体的に記述されているのに対して、幼稚園教育要領のねらいと内容は抽象的で心情や態度を中心に記述されており、現状のままでは両者の間に連続性を持たせにくいことが指摘される。小学校教育と幼児教育の接続を保障するために、幼稚園教育要領にいくつかの必要な内容を追加すること、ねらいと内容の具体化を図ること、能力的側面の目標設定が必要であること、現在小学校で取り組まれている内容の一部を幼児教育に移行するなどの必要性を指摘した。

キーワード：小学校教育と幼児教育の接続、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保小連携

目 的

現在、小学校では、いわゆる「小1プロブレム」が重要な解決課題のひとつとしてクローズアップされている。小1プロブレムは、小学校入学直後からきちんと席に着くことができない、先生の話を中心して聞くことができない、学習に興味を持てない、学習内容に興味を持てないなどという深刻な問題である。この問題を受けて、幼児教育と小学校教育との連続性、スムーズな接続性が問われるようになり、最近では、幼稚園・保育所と小学校との連携研究が各地で盛んに行われはじめている。

現在行われている連携の方策としては3つの種類がある。

① 子ども同士の交流：幼児が小学生と交流することで小学校入学への期待を高め、親しい先輩がいることで安心して小学校に入学できるようにする。

② 教師間の交流：交流を通して小学校教育ないし幼児教育を相互理解し、それぞれの教育の特徴や方法として学ぶべき点を発見して自らの教育力の向上を図るとともに、気になる子どもを中心に卒園後の様子、在園時の様子などを伝え合う。

③ カリキュラムの接続：幼稚園・保育所でどこまで育て、小学校でどこから育てるか（スタートカリキュラム）を検討し、カリキュラムの連続性と接続性を図る。

この中で、幼児教育と小学校教育が連続性を持ち、子どもが幼児教育を土台として小学校の生活や学習に適応することを目指した連携の取り組みとしてカリキュラムの接続を模索する取り組みが、小1プロブレムの解消を図るためにも特に重要である。現在、これに関する取り組みも行われるようになってきてはいるがはまだまだ試行錯誤の段階であり、小学校の生活全体にまたがる具体的な内容を伴うようなカリキュラムを作成してい

かなければならない。

わが国では、すべての小学校で学習指導要領に沿った教育が行われている一方で、幼稚園と保育所、とくに幼稚園ではねらいや内容、方法において、幼稚園教育要領、保育所保育指針が求めるものとは異なる教育・保育を行っているところも少なくないという現実がある。とはいえ、小学校は小学校学習指導要領、幼稚園は幼稚園教育要領、保育所は保育所保育指針に教育・保育が展開されるのが原則である。そうである以上、幼児教育と小学校教育の接続性と連続性が保障されるためには、幼稚園教育要領、保育所保育指針と小学校学習指導要領との間に、ねらい・目標と内容、方法上の連続性、接続性が確保されていなければならない。

そこで、幼稚園教育要領、保育所保育指針と小学校学習指導要領との間の連続性、接続性の実態を明らかにし、より確かな連続性と接続性を確立するために改善すべき点や、カリキュラムの連携研究に取り組む教育現場が留意すべき事項を見出したい。

1) 小学校生活に必要な基礎的事項に関する連続性と接続性

子どもが幼稚園・保育所を卒園し、小学校の生活に適応して充実した授業を含む学校生活をおくるために必要な心情や態度、能力に関して、幼稚園教育要領のねらいと内容はどの程度対応しているのだろうか。

表1は、小学校生活に必要な基礎的事項と幼稚園教育要領のねらいと内容のなかの関連する項目を対比させたものである。このうち小学校生活に必要な基礎的事項については、「道徳」に記述されている内容に必要性が高いと思われる項目を加え、「学校生活全般を支えるもの」、「友達関係を支えるもの」、「多くの教科に共通する学習の基礎となるもの」に分け、両者間の連続性、接続性について検討した。

その結果、両者が対応しており、連続性、接続性があると判断されるもの、対応の有無に伝の判断が難しいもの、対応がないと判断されるものの3つに分類することができる。

学校生活全般を支えるもののうち次の項目は両者が対応していると判断される。

- ・充実した小学校生活を過ごす
- ・基本的な生活習慣（食事、排泄、手洗い、着替え等）
- ・健康や安全に気をつける（道徳）

- ・安全に登下校できる
- ・よい姿勢で座る、立つ、歩く
- ・自分で考え、自分で行動する
- ・自分でできることは自分でする
- ・よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う（道徳）
- ・決まりを守る
- ・約束や決まりを守り、みんなが使うものを大切に（道徳）
- ・学校の人に親しむ（道徳）

両者に対応があるかどうかの判断が難しい項目がかなり多く、次の諸項目がそれに該当する。

- ・気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心がける（道徳）
- ・時間を意識し、決められた時間を守る
- ・必要なマナーを守る
- ・連絡物などは忘れずに保護者に渡す
- ・物や金銭を大切に（道徳）
- ・したくないことでも、しなければならないことはする
- ・時間内の食事、好き嫌いを少なくし、一定時間内に食べ終わる
- ・生活リズム（早寝、早起き、朝食、運動後の休息等）
- ・身の回りを整える（道徳）（掃除、片付け、整理整頓）
- ・見通しを持って行動する（あとどれぐらいの時間がある、休み時間にトイレに行くなど）
- ・自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかり行う（道徳）
- ・わがままをしない（道徳）
- ・うそをついたりごまかしをしないで、素直にのびのびと生活する（道徳）
- ・規則正しい生活をする（道徳）

これらの項目のほとんどは、幼稚園教育要領に「内容」として記載されている項目が具体的にどのような内容を含んでいると解釈するかによって判断が分かれてくる。たとえば、「先生や起き、朝食、運動後の休息などが含まれているかどうかによって判断が異なってくる。

次の項目は、幼稚園教育要領には該当項目がなく、幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の間の連続性、接続性はないと考えるのが妥当である。

- ・幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする（道徳）
- ・日ごろお世話になっている人々に感謝する（道徳）
- ・働くことのよさを感じて、みんなのために働く

(道徳)

- ・ 父母、祖父母を敬愛し、すすんで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る
- ・ 自分のしたことに責任を持つ
- ・ 先生を敬愛する (道徳)

「友達関係を支えるもの」のなかで幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の間に接続性、連続性があるのは次の項目である。

- ・ 自分の思いを言葉で表現する
- ・ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す
- ・ 会話に必要な言葉を身につける
- ・ 友達と喜んでかかわる
- ・ 友達と仲良くし、助け合う
- ・ 喜びや悲しみを共感する
- ・ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く
- ・ 友達のよいところに気づき、認める
- ・ 友達と協力する
- ・ 友達に対してすべきことをし、してはいけないことはしない
- ・ 友達を思いやる

また、幼稚園教育要領の内容の具体化によって接続性、連続性を持たせることができるものとして次の項目がある。

- ・ 分けあう、譲りあう
- ・ 要求や疑問を伝える
- ・ 丁寧な言葉、尊敬語を使う
- ・ 友達の悪いところを注意する

「いやなこと、思うようにいかないことがあっても我慢する」は幼稚園教育要領の中には該当する項目がないと考えられる。

友達関係を支える基礎となる事項においては接続する項目、あるいは幼稚園教育要領の内容の具体化によって接続させることが可能な項目が比較的多く見られる。

「多くの教科に共通する学習の基礎となるものについては次のように分類することができる。

〈接続性、連続性があるもの〉

- ・ 物の性質や数量に対する豊かな感覚を持つ
 - ・ 様々な事物や事象に興味、関心を持つ
 - ・ 自然などの身近な事物や事象を活動に取り入れる
 - ・ 試したり、考えたり、工夫する
 - ・ 先生や友達の言葉や話に興味や関心を持って聞く
 - ・ したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する
 - ・ したいこと、してほしいことを言葉で表現する
 - ・ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す
 - ・ 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、豊かなイメージを持つ
 - ・ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう
 - ・ いろいろな素材が使える
- 〈幼稚園教育要領の内容を具体化することによって接続が可能になるもの〉
- ・ 分からないことを質問する
 - ・ 分からないこと、興味あることを自分で調べようとする
 - ・ 手を挙げて自分の意見を言う
 - ・ 席について先生の話を中心して聞く (45 分間)
 - ・ 授業中は席を離れない

表 1. 幼稚園教育要領のねらい・内容と小学校生活に必要な基礎的事項との接続

(1) 学校生活全般を支えるもの

幼稚園教育要領のねらいと内容 () 数字はねらい ○数字は内容	小学校生活に必要な基礎的事項
<p>「健康」</p> <p>(1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。</p> <p>(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p> <p>① 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。</p> <p>② 進んで戸外で遊ぶ。</p> <p>⑤ 先生や友達と食べることを楽しむ。</p> <p>⑥ 健康な生活のリズムを身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 充実した、小学校生活を過ごす ・ 楽しい食事 (時間内の食事、好き嫌いを少なく、一定時間内に食べ終わる) ・ 生活リズム (早寝・早起き、朝食、運動後の休息等) ・ 基本的な生活習慣 (食事、排泄、手洗い、着替え等) ・ 身の回りを整える (道徳) (掃除、片付け、整理整頓) ・ 見通しを持って行動する (あとどれぐらいの時間がある、休み時間にトイレに行くなど)

<p>⑦ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。</p> <p>⑧ 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。</p> <p>⑨ 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。</p> <p>⑩ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に気をつける（道徳） ・安全に登下校できる ・よい姿勢で座る、立つ、歩く ・自分で考え、自分で行動する ・自分でできることは自分でする ・自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかり行う（道徳） ・したくないことでも、しなければならないことはする ・自分のしたことに責任を持つ ・わがままをしない（道徳） ・よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う ・うそをついたりごまかしをしないで、素直にのびのびと生活する（道徳） ・決まりを守る ・規則正しい生活をする（道徳） ・気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心がける（道徳） ・幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする（道徳） ・日ごろお世話になっている人々に感謝する（道徳） ・約束や決まりを守り、みんなが使うものを大切にする。（道徳） ・働くことのよさを感じて、みんなのために働く（道徳） ・時間を意識し、決められた時間を守る ・必要なマナーを守る ・父母、祖父母を敬愛し、すすんで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る（道徳） ・先生を敬愛する（道徳） ・学校の人に親しむ（道徳） ・連絡物などは忘れずに保護者に渡す ・物や金銭を大切に使う（道徳）
<p>「人間関係」</p> <p>(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p> <p>③ 自分で考え、自分で行動する。</p> <p>② 自分でできることは自分でする。</p> <p>③ いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</p> <p>⑪ 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとする。</p> <p>⑫ 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。</p>	
<p>「環境」</p> <p>⑥ 身近な物を大切に使う。</p>	
<p>「言葉」</p> <p>① 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。</p> <p>② したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。</p> <p>③ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。</p> <p>④ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</p> <p>⑤ 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。</p> <p>⑥ 親しみをもって日常のあいさつをする。</p>	

(2) 友達関係を支えるもの

幼稚園教育要領のねらいと内容	小学校生活に必要な基礎的事項
<p>「人間関係」</p> <p>(2) 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p> <p>① 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</p> <p>⑤ 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを言葉で表現する ・要求や疑問を伝える ・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す ・必要な言葉を身につける ・丁寧な言葉、尊敬語を使う ・友達と喜んでかかわる ・友達と仲良くし、助け合う

<p>⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。</p> <p>⑦ 友達のよさに気付く、一緒に活動する楽しさを味わう。</p> <p>⑧ 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。</p> <p>⑨ よいことや悪いことがあることに気付く、考えながら行動する。</p> <p>⑩ 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。</p> <p>「言葉」</p> <p>(2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・喜びや悲しみを共感する ・自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く ・友達のよいところに気づき、認める ・友達の悪いところを注意する ・友達と協力する ・友達に対してすべきことをし、してはいけないことはしない ・友達を思いやる ・分けあう、譲りあう ・いやなこと、思うようにいかないことがあっても我慢する ・友達と語り合う
--	--

(3) 多くの教科に共通する学習の基礎となるもの

幼稚園教育要領のねらいと内容	小学校生活に必要な基礎的事項
<p>「環境」</p> <p>(3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p> <p>② 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。</p> <p>④ 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。</p> <p>⑦ 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</p> <p>「言葉」</p> <p>(2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</p> <p>① 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。</p> <p>② したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。</p> <p>③ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。</p> <p>④ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</p> <p>「表現」</p> <p>(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。</p> <p>② 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。</p> <p>③ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。</p> <p>⑤ いろいろな素材に親しみ、使い方を工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物の性質や数量に対する豊かな感覚を持つ ・様々な事物や事象に興味、関心を持つ ・分からないことを質問する ・分からないこと、興味あることを自分で調べようとする ・自然などの身近な事物や事象を活動に取り入れる ・試したり、考えたり、工夫する ・先生や友達の言葉や話に興味や関心を持って聞く ・したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する ・したいこと、してほしいことを言葉で表現する ・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す ・手を挙げて自分の意見を言う ・席について先生の話を中心して聞く（45分間） ・授業中は席を離れない ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、豊かなイメージを持つ ・様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう ・いろいろな素材が使える

2) 小学校 1 年生の教科との連続性と接続性

小学校 1 年生の教科のうち、国語、算数および生活について幼稚園教育要領との連続性・接続性を見てみよう。

国語においては、小学校学習指導要領には「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」という 3 つの主な内容があり、さらに伝統的な言語文化に関する事項、言葉の特徴やきまりに関する事項、文字に関する事項、書写に関する事項が示されている。

このうち、話すこと・聞くことに関しては、幼稚園教育要領でも「言葉」の領域を中心にいくつかの内容が設定されている。ただし、国語の内容は、「身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと」、「相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと」、「姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと」、「大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと」互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと」など、能力に関する到達目標が具体的に示されているのに対して、幼稚園教育要領では「自分なりに言葉で表現する」、「人の話を注意して聞き、相手にわかるように話す」、「生活の中で必要な言葉が分かり、使う」、「いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする」、「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう」などの心情や態度を中心とする内容であり、具体的にどうつながるかについては明確ではない。

書くことと読むことに関しては、幼稚園教育要領では「日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」という記述のみであり、能力的な育ちのつながりについては判断することができない。伝統的な言語文化に関する事項、言葉の特徴やきまりに関する事項および書写に関する事項に関しては幼稚園教育要領には一切の記述がなく幼児教育段階での指導内容ではないということになる。

算数については、小学校学習指導要領には、数と計算、量と測定、図形、数量関係について、能力の習得を目指す指導内容が具体的に記述されているのに対して、幼稚園教育要領では、領域「環境」に、「日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ」という内容が示されるにとどまっている。

「生活」では、学習指導要領に示されている 9 つの内容の多くが幼稚園教育要領の内容と重複、あるいは連続性を持っている。そのなかで、「自

分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができる」は、幼稚園教育要領に該当する項目がない。

考 察

幼児教育と小学校教育の連続性・接続性にはいくつかの形態がある。次のような接続を考えることができる。

- ア) ほぼ同一の内容を重複して指導する(幼稚園・保育所でも小学校でも)
- イ) 子どもの発達に対応して発展的に連続、接続する(幼稚園で保育所ではここまで、小学校はここから)
- ウ) 小学校入学前に育てておき、入学時には完成している
- エ) 小学校入学以後に育てる

このうちアとイについては、幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の両者に関連する内容が記述されており、ウについては幼稚園教育要領のみに、エについては小学校学習指導要領のみにねらいと内容が記述されることになる。

現行の幼稚園教育要領と保育所保育指針を対応させてみると、かなりの項目で両者が関連する項目がある。しかしながら、そのほとんどで、重複的に連続するのかそれとも発展的に連続するのか、具体的にどのように連続・発展しているのかを判断することができない。

その主な理由は、幼稚園教育要領のねらいと内容が、興味・関心を持つ、楽しむ、喜ぶ、親しみ、～しようとするなど、心情や態度の育ちを中心に抽象的な表現で示されているのに対し、小学校学習指導要領は能力の育ちを具体的に示していることによる。幼稚園教育要領のほとんどのねらいと内容は、それを見ただけでは何をどこまで育てるのか不明である。このままでは、幼稚園・保育所でどこまで育てたらよいのか、それを受けて小学校ではどこから育てたらよいのかという両者のスムーズな接続のために非常に重要な判断基準が、国の基準のところで欠けているといわざるを得ない。子どもたちが小学校に適応し、充実した生活と学びにとってとくに必要と思われる項目、小 1 プロblemsの発生に深い関連があると思われる次のような項目については、幼稚園教育要領のねらいと内容に必要な能力目標も取り入れながら具体

化を図る必要がある。

- ・先生や友達と食べることを楽しむ。
→食材や作る人への感謝，食べるとの大切さなど
 - ・危険な場所，危険な遊び方，災害時などの行動の仕方が分かり，安全に気を付けて行動する。
→安全意識，危険を避ける行動の内容
 - ・生活の中で必要な言葉が分かり，使う。
→どのような言葉
 - ・よいことや悪いことがあることに気付き，考えながら行動する。
→気づいてほしい具体的内容
 - ・友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き，守ろうとする。
→決まりの内容
 - ・人の話を注意して聞き，相手に分かるように話す。
→どのような状況でどの程度継続して
 - ・日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心
→文字の範囲，読み？読み書き？
 - ・日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
→数える，加減算などについて何をどこまで
- 小学校学習指導要領には記述され幼稚園教育要領に示されていない内容についてはどうだろう

か。これらは，小学校入学後に指導する事項ということになる。次の内容がそれに該当する。

- ・幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し，親切にする。
- ・日ごろお世話になっている人々に感謝する。
- ・働くことのよさを感じて，みんなのために働く。
- ・父母，祖父母を敬愛し，すすんで家の手伝いなどをして，家族の役に立つ喜びを知る。
- ・自分のしたことに責任を持つ。
- ・先生を敬愛する。以上「道徳」
- ・自分自身の成長を振り返り，多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと，自分でできるようになったこと，役割が増えたことなどが分かり，これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持つ。（生活）

いずれの内容も幼稚園や保育所である程度指導されている内容であり，思いやり・やさしさ，人の役に立つ喜び，責任感，感謝の心は生きる力や人間関係の基礎として重要な資質である。幼児のうちから少しずつ，確かに育てておきたい事柄であり，幼稚園教育要領の内容に追加することによって，幼児教育から小学校教育への一貫した流れの中での育ちが期待される。

表 2. 幼稚園教育要領のねらい・内容と教科（国語第 1 学年）との関連

<p>「環境」</p> <p>(3) 身近な事象を見たり，考えたり，扱ったりする中で，物の性質や数量，文字などに対する感覚を豊かにする。</p> <p>⑩ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。</p> <p>「言葉」</p> <p>(2) 人の言葉や話などをよく聞き，自分の経験したことや考えたことを話し，伝え合う喜びを味わう。</p> <p>(3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，絵本や物語などに親しみ，先生や友達と心を通わせる。</p> <p>① したり，見たり，聞いたり，感じたり，考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。</p> <p>④ 人の話を注意して聞き，相手にわかるように話す。</p> <p>⑤ 生活の中で必要な言葉が分かり，使う。</p> <p>⑧ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</p>	<p>1 目標</p> <p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。</p> <p>第 1 学年</p> <p>(1) 相手に応じ，身近なことなどについて，事柄の順序を考えながら話す能力，大事なことを落とさないように聞く能力，話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに，進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 経験したことや想像したことなどについて，順序を整理し，簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに，進んで書くようとする態度を育てる。</p> <p>(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり，想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，楽しんで読書しようとする態度を育てる。</p>
---	--

- ⑨ 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- ⑩ 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

「表現」

- ② 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- ③ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- ⑨ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

2 内容

A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。
- ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。
- イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。
- ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。
- エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。
- オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。

B 書くこと

- (1) 書くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。
- ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。
- イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
- ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。
- エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。
- オ 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。

C 読むこと

- (1) 読むこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。
- ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
- イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
- エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。
- オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
- カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

- (1) 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。
- ア 伝統的な言語文化に関する事項
 - (ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。
- イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
 - (ア) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

	<p>(イ) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。</p> <p>(ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。</p> <p>(エ) 長音、拗(よう)音、促音、撥(はつ)音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。</p> <p>(オ) 句読点の打ち方や、かぎ(「 」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。</p> <p>(カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p> <p>(キ) 敬体で書かれた文章に慣れること。</p> <p>ウ 文字に関する事項</p> <p>(ア) 平仮名及び片仮名を読み書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(ウ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(2) 書写に関する次の事項について指導する。</p> <p>ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。</p> <p>イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。</p>
--	---

表3. 幼稚園教育要領のねらい・内容と教科(算数・第1学年)との関連

<p>幼稚園教育要領</p> <p>「環境」</p> <p>(3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p> <p>⑩ 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。</p>	<p>小学校学習指導要領</p> <p>算数 第1学年</p> <p>1. 目標</p> <p>算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。</p> <p>第1学年</p> <p>1 目標</p> <p>(1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。</p>
---	---

- (2) 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。
- (3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。
- (4) 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。

2 内容

A 数と計算

- (1) ものの個数を数えることなどの活動を通して数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。
 - ア もののものとを対応させることによって、ものの個数を比べること。
 - イ 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。
 - ウ 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。
 - エ 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。
 - オ 2 位数の表し方について理解すること。
 - カ 簡単な場合について、3 位数の表し方を知ること。
 - キ 数を十を単位としてみること。
- (2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。
 - ア 加法及び減法が用いられる場合について知ること。
 - イ 1 位数と1 位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。
 - ウ 簡単な場合について、2 位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

B 量と測定

- (1) 大きさを比較するなどの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。
 - ア 長さ、面積、体積を直接比べること。
 - イ 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。
- (2) 日常生活の中で時刻を読むことができるようにする。

C 図形

- (1) 身の回りにあるものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。
 - ア ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすること。
 - イ 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を正しく用いて、ものの位置を言い表すこと。

D 数量関係

- (1) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。
- (2) ものの個数を絵や図などを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。

〔算数的活動〕

- (1) 内容の「A 数と計算」、「B 量と測定」、「C 図形」及び「D 数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。
 - ア 具体物をまとめて数えたり等分したりし、それを整理して表す活動
 - イ 計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動
 - ウ 身の回りにあるものの長さ、面積、体積を直接比べたり、他のものを用いて比べたりする活動
 - エ 身の回りから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりする活動
 - オ 数量についての具体的な場面を式に表したり、式を具体的な場面に結び付けたりする活動

〔用語・記号〕

一の位 十の位 + - =

表 4. 幼稚園教育要領のねらい・内容と教科（生活・第1 学年）との関連

<p>「健康」</p> <p>(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p> <p>⑧ 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。</p>	<p>1 目標</p> <p>(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心をもち、地域のよさに気づき、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。</p>
--	---

- ⑨ 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。
- ⑩ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動するようにする。

「人間関係」

- (2) 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。
- (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。
 - ① 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
 - ② 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。
 - ③ 高齢者をはじめ地域の人々など、自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

「環境」

- (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
- (2) 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。
 - ③ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
 - ④ 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
 - ⑥ 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
 - ⑦ 身近な物を大切にする。
 - ⑧ 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
 - ⑩ 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。

「表現」

- ③ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- ④ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- ⑤ いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- ⑦ かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- ⑨ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

- (2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心をもち、自然のすばらしさに気付き、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活することができるようにする。
- (4) 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。

2 内容

- (1) 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができる。
- (2) 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。
- (3) 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。
- (4) 公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。
- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。
- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。
- (7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもちまた、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。
- (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。
- (9) 自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができる。

